

## 第12回 生産マイスター検定 3級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石山 真実

### ■ 第12回検定の結果を振り返る

3級の結果を振り返りますと、10, 11回の検定より少し平均点が下がってしまいました。特に、「品質」と「コスト」がウイークポイントのようです。

まず「品質」に関してですが、仕様や規格に関する生産技術部門や製造部門の果たすべき役割の理解が不足しているように見受けられます。＜製品仕様＞→＜製品規格＞→＜検査規格＞→＜製造規格＞のつながりと、それらをどう決めてどう守っていくのかを、もう一度おさらいしてみましょう。また、新QC七つ道具についても、なじみが薄いかもしれませんが、それぞれの手法は大変有意義なものですので、その意味と活用方法を再確認しましょう。

「コスト」に関しては、ワークメジャメント関連の理解が不足していたようです。これは、作業者のスキルアップと稼働率の向上がポイントになります。そのための管理方法（総合パフォーマンスの測定、管理指標の算出方法）や、稼働ロスを把握する手法（ワークサンプリング）をもう一度確認してみましょう。現場を改善し、リーダーシップを発揮しながらメンバーを引っ張っていくためには、これらの知識は不可欠なものです。是非、再度テキストを確認いただき、自身のものにして下さい。

### ■現場の活動から

先日、ある会社で優秀リーダー賞を受賞した方とお話する機会がありました。

その方に、「担当職場を生き活きさせるためのポイントは何ですか？」と聞いてみますと、「やる気」、「やる腕」、「活躍の場」をつくる具体的な行動が重要である、と答えられました。その中でも特に「活躍の場」を強く意識しているということでした。

メンバーが生き活きするには、「やり遂げた達成感」が重要と考え、達成感が得られる場面や機会をどうすればつくれるか、寝てもさめても考えておられたようです。そうした場はメンバーの「活躍の場」であるから、必ず達成させるような支援を一生懸命やり、なんとか成功の喜びを感じてもらうことが特に重要とのことでした。

「うちのメンバーは、受身でやる気がない」、「活動が活性化しない」という声をよく耳にしますが、「活躍する場」つまり、達成感や存在感を感じられるような場と、そのための育成、かわりができているのでしょうか。お話を伺ったこのリーダーも、当初は日々忙しい中、大変だったと言われていましたが、今ではメンバーが自ら進んでやるべき事、改善推進を進めてくれるようになったとのことでした。皆さんの職場はいかがですか。

以上